

「景観変化が著しいため、定点観測ができないことがあります。現在もいずれば過去になるという視点から、現時点で歴史資源だと感じるところだけでなく、今後大きく変化しそうな場所も撮影しています。絵葉書と写真、記録カードとともに未来へのプレゼントとして写真集にまとめる予定です」。長期視野を取り入れた曲田助教ならではの活動は、本プロジェクトがもつ魅力のひとつといえるでしょう。



神社に設置された石造物を採寸する学生たち。

地域史料の調査・保存、活用は人生の財産に。

歴史というものは、正確に記録して後世に残すことで価値が高まっていくものです。

曲田助教も「地域の人の人にとって当たり前のも、フレッシュな感性と多様な視点をもった学生たちにとっては素晴らしいモノになります。街づくりには記録してデータをまとめ、街づくりに活用可能な材料を地域に提供します。学生たちの調査や意見が地域住民に刺激をあたえ、保存や広報といった活動につながってほしいですね」と熱意を込めて話してくれました。

本プロジェクトで知多半島の歴史や文化を調査し、活用する方法を身につ



足を使って得たデータは調査シートに記録。

けた学生たち。この経験は就職活動のアピールポイントになるだけでなく、これからの長い人生で役立つ財産となっていくことでしょう。

「海の文化とものづくりプロジェクト」
リーダー 経済学部助教

曲田 浩和 まかひだひろかず
Hirokazu Magarida

1965年生まれ。専門分野は江戸時代。特に生産・流通・消費の関連から当時の経済・社会を考える。地域における商人の動き、地域をつなぐ流通のあり方を通して、江戸時代の生活を探る。趣味は旅行・博物館巡り。



●文部科学省の「現代GP」とは…

「現代的教育ニース取組支援プログラム(通称:現代GP)」は、大学や短期大学、高等専門学校から応募された取り組みのなかから、社会的に要請の高い政策課題に対応したテーマを選定し、財政的な支援によって高等教育のさらなる活性化をはかる文部科学省の新規事業です。

●2005年度のプロジェクト活動一覧

- 海の文化とものづくりプロジェクト
- 廃校問題プロジェクト
- 美浜町防災ネットプロジェクト
- 産業観光プロジェクト
- 観光の伝統と革新プロジェクト
- 持続可能な知多半島づくりプロジェクト
- 蔵の街プロジェクト
- 地域産業プロジェクト
- 地域商工業振興プロジェクト
- 地域通貨プロジェクト
- 地域生涯学習プロジェクト
- 国際化プロジェクト

Topics 現代GP2年連続採択の快挙。

本学は平成16年度に引き続いて、平成17年度も現代GPに採択されました。テーマは、「福祉人材を育成するeラーニングプログラム—これからの養護学校教諭に求められる能力育成を目指して—」。中央教育審議会が提起している特別支援学校教諭育成を視野に入れながら、養護学校向け人材育成のためのプログラムを整備していきます。

「活動しているとき、いろいろな驚きに出会いました。たとえば、内海地区に大岩の姓が多いのは、源義朝を助けたお礼に義朝から授かったため。歴史は現在につながっていることをあらためて実感しました」と森さん。長野県出身の米倉さんは「調査を続けるなかで、実家の周辺にある歴史遺産に興味を湧きました。フィールドワークは自分の可能性を広げてくれた気がします」。二人の話から、プロジェクトメンバーが楽しみながら学んだ様子がかがえました。

●プロジェクト参加メンバーに聞く



経済学部 経済学科3年 森 由加里さん(左)
経済学部 経済学科3年 米倉 春香さん(右)



石像物調査を通じて
地域住民と交流する。

「古くは廻船業で隆盛を極め、醸造業が盛んであり、明治以降は観光業も栄えてきた知多半島。歴史ある当地域ならではの魅力を、学生にもっと知ってもらい、地元の人を再認識してほしい。ひいては、街づくりに活用してもらえたらうれしいですね」と話すのは、「海の

文化とものづくりプロジェクト」のリーダー
曲田助教授。

本プロジェクトのテーマは、地域文化です。昨年度は、南知多町観光ボランティアに内海地区を案内してもらいながら歴史的資源を巡り、「内海の昔探しに出かけませんか」という題目の報告書に学生の感想や提言をまとめました。今年度は、内海地区の歴史資源調査や知多半島の景観調査などを実施してい

文部科学省が進める「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」。
本学が提案して採択されたプログラム
「知多広域圏活性化に向けた学生の地域参加」は、
多彩な12プロジェクトが現在進行形で活動中です。
今回は知多半島の歴史資源を活かす
「海の文化とものづくりプロジェクト」に注目しました。

現代GPプロジェクトクローズアップ

知多半島の 歴史と文化を 再発見。

「海の文化とものづくりプロジェクト」

絵葉書と写真で

歴史のページを創造。

ます。「二〇〇五年十月に学生約二十五人と南知多町観光ボランティアというしよに、入見・高宮・山・熊野の四神社に出かけて、歴史資源である石像物調査をしました。灯籠や狛犬、鳥居、水盤など石造物は百基を超え、最古のものは二百五十年前に奉納されたことが判明。学生たちは、内海地区に奉納できる豊かな財力と信心深い人が多くいたことを読み取ったと思います」。

景観調査では、知多半島の海岸線や海の変化について探っています。調査には、知多半島をモチーフにした大正から昭和初期の絵葉書を利用。描かれた地点を探し、現在の様子を写真に撮影して比較しました。学生たちは、カメラを片手に調査。写真撮影の技術が伸びると